

看護部だより

ひまわり



2024年1月
発行責任者 田口 弥生

VoL.87



副院長・看護部長
久々湊 智予

新年のごあいさつ

2024年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

2024年の干支は「甲（きのえ）の辰」。甲は「木」を表していて、十干の巡りのいちばん初めの気、つまり新たな時代のサイクルが始まる時。また、辰は十二支で唯一想像上の動物なうえとてもパワフル。今まで思いつきもしないような新しいことが次々と力強く始まっていくような年になるでしょう！と西洋占星術ではこのようにいっています。

前回の甲辰に当たる60年前は、ちょうど1964年で、最初の東京オリンピックがあった年で、首都高や新幹線が通るなど、ダイナミックな国土の変化や成長が次々に起こった高度経済成長だった中の年でした。

これから始まる2024年は、60年前とは時代も世の中も同じではありません。同じ甲辰でも、2024年は新しい、これまでとは「違う夢」をみていく時代なのです。「上がこう言っているからしかたない」「昔からこうだから」「これが当たり前」と思って流されていた人も、「このままでいいわけがない！」と覚醒してきているはず。

これからはさらに変えるべき部分を思い切って変え、みんなで知恵を絞って立ち向かうことが必要になっていきます。

2024年は意識的にでも、「絶対無理！」「できない！」と言わない・思わないようにしてみて！

みんなが少しずつ新しいことに踏み出せば、時代が変わるかもしれません。

新しいことを応援するような風は吹いていると思います。



ACLSを受講して

回復期リハビリテーション病棟 王子野

11月にHeartcode ACLSに参加しました。受講して感じた事は性別・年齢・現病歴・既往歴・アレルギー・内服薬・症状…患者によって様々であり、全く同じ状態で患者が急変する確率はかなり低いです。そんな中、自分(発見者)ができる事は【人を呼ぶ=人を集める】です。なにも出来なくても、まず人を集める事で急変時の対応は変わってきます。そして、それぞれの役割を全うことです。役割以外のことに手を出してしまうと、状況が混雑し新たなリスクが生まれます。モニター監視・薬剤投与・記録・心臓マッサージ・呼吸の各メンバーの役割を決め、チーム間でのコミュニケーションをとることで、1人で抱え込む必要はなくなります。1人では不安でも、複数では安心と共に仲間が居るという気持ちも生まれました。ACLSは、経験年数が何十年だろうと受講すべきだと感じました。

外来 内倉

ACLSプロバイダーコースを受講しました。コースはオンラインによる講習(Part1)とインストラクターによる技術講習(Part2)の構成となっていました。技術講習(Part2)では、急変患者の対応を発見者が応援をよび、数人で役割分担し対応する訓練を役割交代しながら行っていました。患者の状態を観察し、アセスメントに必要な情報収集を行い、状況を判断してアルゴリズムに沿って処置を行っていきます。リーダー、薬剤担当・モニター担当のメンバーなど役割は異なりますが、チームは一つです。情報の足りない部分を補ったり、緊張しているメンバーに声をかけたりとコミュニケーションを取りチームで連携を図りながら対応することの大切さを再認識しました。初対面の方も多く、緊張しながらも、交流をはかりながら楽しく学ぶことができました。



認定看護管理教育課程：セカンドレベル教育を受講して

がん化学療法看護認定看護師 外来師長代理 濱田

認定看護管理者教育過程セカンドレベル受講の機会をいただき、当院の理念・目標から人材育成の必要性や病院経営に参画する意義について学ばせてもらいました。救急外来や初診診療から入院につなげることが病院経営に貢献できる。病院のVISIONにもあるように、急性期の砦を守れるよう、学んだことを発揮していきたいと思います。



令和5年度 看護管理研修

「第2回ACPの推進における倫理的課題への対応」に参加して

入退院支援室 PFM副師長 有川

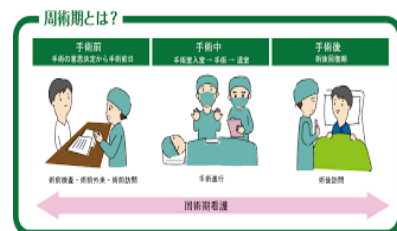
事前に配布された各医療機関の取り組み実践報告書をもとに、ZOOMで質疑応答や意見交換を行いました。鹿児島市、霧島市は地域共通の連携用紙をツールとして活用していますが、薩摩川内市は地域共通の体制は整備されていません。今後地域包括ケアシステムを推進する上でも喫緊の課題と言えます。また、グループワークで抽出された当院の課題として、運営主体やマニュアルなどのシステム整備が不足していること、院内連携体制が曖昧であることが挙げられました。当院の短い平均在院日数(令和4年度12.5日)の中でACPや意思決定支援を行うためには早期の介入と院内連携が不可欠です。今回の研修を現場に活かせるように看護管理者として役割モデルを発揮していきたいです。



第37回 日本手術看護学会年次大会（10/27～28）

手術室 宮内

10月27日～28日の2日間、福岡で開催された看護学会に参加してきました。「進化し続ける周術期看護—多様な価値観への対応」という大会テーマに基づき、全国の周術期看護に携わるスタッフと様々な情報交換を行う事ができました。他の病院や施設で取り組んでいることや、周術期に関わる特定看護師や周麻酔期看護師の存在を知る事で、手術室看護師として時代の流れに対応し、常に進化し続けていく必要があるのだととても刺激を受けました。これからも手術を受ける患者さんと、共に不安を抱えているご家族に対し、安心安全な看護を提供できるように日々自己研鑽していきたいと思ひます。



第20回 日本循環器看護学会学術集会（オンライン受講）

4階東病棟 森園



今回、日本循環器看護学会学術集会をオンラインにて受講しました。心不全においては、当院でも再発予防のために心不全手帳を用いて指導を行っていますが、他病院でも再発予防のために様々な工夫をされていました。例えば、栄養指導を看護師から行う病院もありました。また、不整脈の患者に対して、デバイス植え込み後の指導が重要であること。私達もパンフレットを使用して指導を行っていますが、患者の在宅環境や家族背景などを含めた指導が行き届いていないと感じます。患者にあった指導を行うためには、看護師自身が学ぶ姿勢や知識・情報の共有が必要であることを学びました。今回学んだことを他スタッフへの情報提供を行い、よりよい看護を提供できるように努めていきたいと思ひます。

第27回 日本心不全学会学術集会（オンライン受講）

4階東病棟 今川

当病棟でも心不全で入院する患者が多く、ここ数年は看護研究でも心不全患者に焦点を当て、高齢心不全患者へ心不全を繰り返さないために指導ができるように取り組んでいます。研修は、医師向けの講義も多く内容が難しい所もありました。心不全患者の中には、在宅での生活を望むことも多く、「在宅・緩和」での研究でも患者の今後を見据えての遠隔医療を考えたりと在宅で生活できるように医療も進んでいます。今後、心不全患者も多くなってくる予想であるため、患者が安心して在宅で生活できるように、今回の研修で学んだことを活かしていきたいです。



看護協会主催：看護職員認知症対応向上研修を受講して

3階東病棟主任 上 城

看護協会で実施された、認知症対応向上研修に3日間参加しました。日々の看護の中で、認知症患者さんとお会いと思いますが、認知症患者さんの事を差別していませんか？「あの人は認知だから・・・」「認知あるもんね」とか会話していないでしょうか。認知症の人を差別しない、認知症の本人の視点を重視、意見を尊重した対応を行う事。当たり前のことだと思いますが、実施できていない事に気づかされました。病状説明を家族へ実施したり、入院時に近況や意見を家族に求めていたりしていました。この場面では、認知症の人は「自分の事は自分で決めたい」と思っていたり「置き去りにされている」といった負の感情になっています。また、認知症の人は常に不安である事を知りました。不安だから何度も同じ事を確認したり、不安だから出口を探してさまよったり、不安だから怒ったりするそうです。認知症の方に安心を与えられる入院環境作りと信頼関係作りが大切になると学ぶことが出来ました。各病棟に同じ研修に参加したスタッフも多数いますので、認知症患者さんの対応に困ったときはぜひ相談をしてください。

<図書紹介>

おすすめ！



39歳でアルツハイマー型認知症と診断されて8年、認知症で本を書き上げるのはとても時間がかかる。認知症で著者であるのは、丹野さん以外はいない。認知症患者の「本音」が見える本です。

☆ 認知症対応向上研修で紹介されたおすすめの本です。実際に読んでみて、皆さんにも読んでほしいと思いました。



「長谷川式スケール」の開発者である認知症の権威、長谷川和夫医師が自ら認知症であることを公表し、本にされました。有名な本なので読んだことがある方もいると思いますが、医療者の視点で読み進めてみて下さい。



「人間らしさを取り戻す」というユマニチュードのケアの哲学と技術をこれからの臨床現場を目指す人(看護師、介護士、医師など)向けで、日々のケアを見直すヒントがたくさんあると感じられる本です。

＊マイブーム＊

私には特にマイブームはありませんが、もうすぐ次女が出産予定です。娘も初めての出産という事もあり色々携帯で調べたり、出産した友人に聞いたりした娘が、本人は「ninaru」私には「祖父母ninaru」というアプリを勧めてきました。そのアプリは出産予定日を入力したら出産までのカウントダウンが始まり、お腹の中での赤ちゃんの成長が毎日絵と文章で書かれています。毎朝起きたらそのアプリを見るのが楽しみで、今私のちょっとしたマイブームになっています。娘へのアドバイスなども書かれているため、凄く役立つアプリです。妊娠初期に、「今はどんぐりの大きさです」と書いてあったのが、今では約40cmまで成長しているそうです。娘のどんどん大きくなるお腹が愛おしくてたまりません。ninaruはママだけではなく、パパにもお勧めです。おじいちゃん、おばあちゃんになる方も是非試してみてください。



4階西病棟 厚地



<編集後記>

各学会の会場参加も再開され、新しい知見を得る機会も増えました。皆さんの学びが実践の場で活かせることを期待しています。(田口)